

# さ ざ ん か

第 119 号、2011 年 9 月

もともと自然豊かな日本列島の宿命は、自然災害が多いということでした。「人工」災害はもつてのほかですが、「自然」災害はその恵みをたっぷり享受していることのトレードオフとしてある意味、「自然」に受け入れてきたのだと思います。

災害は忘れたところにやってくる、のです。やってこないとは誰も思っていなかったのでしょう。ニッポン国では、壊れやすい家も、流されやすい橋も、決壊する堤防も、ある意味災害があるという前提で成立しているともいえます。まあ、しょうがない、また作り直せばいいや、と。

ギリシアやローマ時代の、永遠に残したいと言う意思を伴う西洋の建築や造形物とはまったく発想的に異なっているのでしょう。また、島国であるから、イテキからの侵略を防ぐための万里の長城も必要がなかったのでしょう。

長い時間のスパンで見ると自然災害は、必然であり、その災害にあった人々には気の毒ではあるけれど、それは誰のせいだとか、誰が悪いという問題ではないのです。

「人工」災害も、現代では自然災害に近い側面を持つようになっていきます。自動車があるから交通事故死がある、飛行機に乗るから落ちる。操縦する人の不注意もある意味では「自然」なものともいえます。ミスのない人間はいないのだから。

それでも、自然災害も交通事故も、いずれも人間の営みの範囲内です。あるいは、地球環境の中での出来事に限定されるのです。それに比べて、やはり原子力発電は間違っていたと言わざるを得ません。自然災害は復興可能ですが、放射線災害は人一人の人生の長さを基準に考えると復興不可能です。福島原発周辺の住民で、生きているうちに地元へ帰ることが出来る人が、いったいどれくらいいるのでしょうか。生きているうちに帰れなければ、それはその人にとっては永遠に帰れなかったのと同じことになってしまいます。

原子力発電がなくても、日本人は生きて行けるでしょう。一方、もしかしたら原子力発電を続けると日本人がすべて死んでしまう可能性もあります。コストとか効率とか、経済性だけに価値観を置くのはもうやめたいものです。

たいがい、グローバリズムとか新自由主義とか、コスト至上主義だとかそういうやり方の空しさは学んできたのだらうと思うのですが、いつの時代も懲りない面々はいるもので、TPP が必要などと叫んでいる人たちもいるようです。最悪、農業と漁業と林業があれば日本人は生き残っていける、という居直りが必要でしょう。

病院の 外壁映ゆる 秋の空

休診日 皆きびきびと 秋時雨

新聞を 秋の灯<sup>ひ</sup>点けて 待ちにけり

### 病院からのお知らせ

\*5月から電子カルテシステムが稼働しております。当初は、特に外来受付の時に、ご面倒をおかけしたようです。その電子カルテでは患者さんのデータを経時的グラフで表すこともとても簡単にできます。たとえば、この1年間のコレステロールの変化を見たい、などという時は主治医にご相談ください。その場でグラフ提示ができると思います。

\*肺炎ワクチンの予防接種を行っております。ご希望の方は各科外来に申し出てください。予約制になっております。

\*亜急性期病床は20床分準備してあります。リハビリテーション中心で少し入院期間が長くなりそうな方向けの病室です。ぜひご利用ください。

\*骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。適切な治療で骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。

骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみたいかどうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。

骨年齢：あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。

\*MRIで脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながるからです。また、脳動脈瘤（くも膜下出血の原因となる）の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。

無症候性の病変（症状はないけど梗塞がある）がみつかると予防の治療を開始した方もおられます。寝たきりや認知症にならないためにも一度は検査されることをお勧めいたします。

\*MRIは腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。

\*新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします。近年乳がんが増加傾向です。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。

\*肝臓病、糖尿病、脳神経外科、難病などの特殊外来は診察日が決まっておりますので、診察希望の方はあらかじめご確認ください。

## 高齢社会を生きる 別府政隆

暦の上では秋である。秋と云えば一年を通じて最も過ごし易い季節でもある。併し、今年例年になく酷しい猛暑が続き、熱中症も多く出た程だ。また酷しい降雨にも見舞われ、大災害も出た。奈良、和歌山県のニュースを見る度に胸に痛みを感じる。東北震災の復興が見えない中、またしても大打撃を受けた日本はこれから先どうなるのであろうか。国民生活にも依り一層の不安を感じるのである。

20世紀前までは町全体が絆で結ばれていたが、今はその光景もみれない。集落も若者や子供達の姿も見なくなった。どこの家も年寄りばかり。独居老人の家も少なくないばかりか、空き家も多くなった。私が幼少の頃は、若者や子供達も多く、活気があり賑やかだった。暑さ、寒さも忘れて子供たちは男も女も一緒になって夕方遅くまで大はしゃぎして遊んだものです。また、近所のじいちゃんから叱られた事を懐かしく思い出しています。また、妻も当時の事を思い出し、口にした。

我が家の小さな菜園に数本の胡瓜があった。留守番を言いつけられた胡瓜を千切れないよう言われたが、欲しくて千切らず、がぶりと噛んだ。そして、叱られた。千切っていなかったことを母がほめてくれた。昔の想いでだが、今の子供達にも生き方の大切さを知って戴きたいものです。

年を重ねる度に、近頃、早く目が覚めて仕方がないのである。何もするでもなく退屈で仕方ない。丁度、この頃、妻が庭先の土手の草刈りで約1メートル弱の土手から転げ落ち、両腕にかすり傷を負った。妻は20数年間、脳梗塞の持病で通院していることもあり、私も心配したが大事には至らなかった。その夜は、よく眠れなかった、手足が痛む、又頭が重いと困った顔で言った。それ以来、私が台所に立つことにした。併し、いざ台所に立つてみると、妻のように手際よくは出来ないもどかしさを感じた。

日が立つにつれて何とか出来栄も良くなってきた事で、結構楽しみを感じています。併し、自分で実際にやってみると、簡単ようでも神経を使い重労働である事を身を持って体験したものです。日毎、この仕事に徹してきたのです。本当に妻や世の女達へ心から感謝すべきと思います。小言を言っている場合ではないのです。妻や女たちが作ってくれた料理を良く味をかみしめ乍ら感謝すべきではなからうか。世の男達も仲良く一日でも長生きする事を心から祈っています。

雨の中 日がな一日 鳴き廻る ホトトギス有 声すき通り  
前ぶれの大型台風 少しなれ 遅れし風が秋をつれ来る

ぼけ老人2人暮らしについに限界が来た。寝たきりになり、食べ物（お粥でさえ）を満足に嚥下できず、大便、小便の失禁を繰り返す父。父のシモの後始末に疲れ果てながらも、父に元気を出すためにと、父に嚥下障害がある事をわすれてステーキ肉を買ってきて食べさせようとする母。父がほとんど食べないので、自分もほとんど食べずに、日々やせ細っていく母。一方で、ある日は、父の面倒はもうこれ以上みれない、あたしはそもそもこの結婚が間違っていたのだと思う、などと話しだす母の姿もあった。

（いったい夫婦で何なのかしらね。配偶者は本来は介護予備人ではないはずだけど、現実にはそういうことだわよねえ。介護してもらうために若い嫁さんを貰った、なんて聞いたりもするしなあ。それってないわよねえ。おまけに姑の介護までさせられた日には・・・）

母から私の勤める職場に、「おとうさんの具合が悪い」と云う電話があったとき、もうとりあえずは夫婦2人での暮らしは無理だと悟り、緊急を要する重症な状況ではなかったが、とりあえず父を病院へ入院させることにした。

父を病院へ連れて行くときは、母を一人家に残して私の車に父を同乗させて病院へいった。父の介護という負担がなければ、母一人で少しはほっとするだろうし、まだ一人家に残して危ないということはないだろう、それに一緒に病院へ連れて行って病院で寝泊まりすることは無理だろうから。家を出る時、母が私に言った。「おとうさんを頼むわね」「分かった。まあ心配しないで。それよりも、せっかくの機会だから、この際、ゆっくりと休憩してよ。」と返事する私。

父を入院させた翌日、病院から母に電話をする。なかなか電話に出ない。間をおいて、何回目かにやっと電話に出た。「どうしたの？何回電話してもでないから心配したよ」。母が答える。「お父さんがいないから探していたのよ。どこに行ったのかしら？」  
（ああ、それって決定的だわねえ。うそのような本当の話なのね）

漠然とした介護への道へ決心が、確実なゆるぎない決心へ変わった歴史的瞬間であった。もう、ただのもの忘れとか、認知症はあるけどまだまだ大丈夫だろう、とか自らに都合の

良い解釈が入り込む余地は、これっぽちもないことが明らかになったのだ。

(ABCD ラインに囲まれた大日本帝国みたいだね。もう、後へは引けない状況に追い込まれてしまったわね。大日本帝国は敗れちゃったけどね。)

これまで、両親がほとんど病気もせずに長生きしてくれていることに二つの面で、心から感謝していた。ひとつは、現実的に親の面倒を物心両面でみる必要がなく、むしろ私たちの孫を、世間の例に漏れず、ひたむきにかわいがり、節操のない愛を与えてくれていた。(ま、その分、孫たちは見事なアホに育ったらしいわね。良かったわねえ。)

孫たちにとって「じいちゃん」「ばあちゃん」の存在は、親とは違うが、しかし確実に身近な肉親として、随分と彼らの成長に彩りと心の豊かさを与えてくれたと思う。(心豊かに、自由奔放に生きているらしいわね。世間体も関係なく・・・)

二つ目に、両親が長生きをすることは、それは長寿の遺伝子を私達子どもに与えてくれていることの証拠だということになるからである。別に、特別長生きしたいとは思わないが、それでも、例えば両親が2人とも40歳とか50歳代で死んだとしたら、自分が40歳、50歳になったとき、もしかしたら、そろそろ自分も・・・と、どことなく不安になるであろう。その点、2人とも高齢まで健康であれば、思いがけない事故とか、自らの不始末とかで自殺するとか、そういうことがなければ自分も特に努力しなくても長生きできるという、根拠はないがそれなりに確信めいた気持ちで日々を過ごすことが出来て来たからである。

(あなたの場合は、遺伝子がなくても長生きしたと思うわ、たぶん。あたしの印象では。)

そのプラスの確信も今回、大幅にぐらつくことになった。両親ともボケた、ということやはり俺もボケるだろう、と心配になるのは当然であろう。せめて、ボケは父親か、母親の一人だけにしてほしい。あるいは、10年位の年の差があるのだから、10年位の時間差を持ってボケてほしい。

同時多発ボケはないんじゃないかあ、ご両親さま。言っても何も始まらない。考えているうちに、みるみる状況は悪化し、臭いものに蓋をするだけでは済まされなくなってきた。

臭いものと云えば、初めて父のおむつを替えてみて、その大変さがしみじみ分かった。あるいは、父の食事の介助をして、根気の必要なことを学んだ。「たった、これくらいのごはん、さっさと食べてよう！」と何度、いらいらしたとか。

淡々と食事介助と排泄の世話をこなすナースの仕事の大変さを改めて知ったと同時に、必ずしもナースでなくても出来ないことはないのだ、とも改めて知った。当然だがナース

のお仕事の本質は食事介助と排泄の世話では絶対でない。

(たぶん、あなたはナースに怨みがあるのねえ。感情が裏表で屈折してるわよ。まったく、単純な人ねえ、あなたって。)

我が子のおむつは何回か替えたことがあるが、我が親のおむつ替えは初めてであった。子供はおむつをするのが当たり前である。おむつをしなかった赤ちゃんはいないであろう。大人のおむつはどうか。年を取ると、子供に帰る。と云う意味からは、再度赤ちゃんに戻って、おむつを使用するのも又ある意味、自然現象なのかもとも思もする。

這えば立て、立てば、歩め！の反対なのであるから、歩めなくなり、立てなくなり、這えなくなり、そして寝たきりとなる。自分で何も出来ない赤ん坊はやがて、独り立ちする。一方、自分で何もできなくなった老人もやがて独りで旅立つ。

さて、肺癌持ちのボケまくった父であるが、いつまでも病院に入院と言う訳には行かず、とりあえずは自宅に連れて帰った。二人ともに認知症、うち一人は肺癌で寝たきり、というこれまで想像だにできなかった状況が現実となった。

想定内の場面では、肺癌の父の看病をけなげにこなす母が居て、幸せな闘病生活を送った父亡き後、母と二人でお茶でも飲みながら父の思い出を語ったりしていたのだが……

人は死ぬ。誰でも死ぬ。人の致死率は100パーセントである。これは受け入れやすい。(こんなに高い致死率の病気はないのじゃないかしら。十分な量の青酸カリなみなのかしら……)

しかし、人は誰でもがボケはしない。まして、同時に夫婦でボケるなんて言語道断である。許されざることである。それでも現実には容赦ないので、とりあえずぼけ老人二人をどうするか、どういう方法がベストなのか、カラーマンなりの介護生活が本格的に始まったのである。それは想像を絶する凄惨な道なのか、あるいは意外に楽しい日々なのか、今は知るすべもないが、絶対に避けて通れない道であることだけは確かな事である。

(あら、テレビでは「絶対に負けられない試合である」、と云いながら、いったい何度日本サッカーは負けたことかしらん。あなたもマスコミみたいに「絶対に避けられない」とか言って自らを煽って鼓舞しているだけなのかもしれないわね。ボケとでもアホとでも楽しく過ごすことはできるはずだよ。)

---

---

#### 編集後記

---

---

敬老の日は今年は9月19日でした。祝日が休日なのはわかるにしても、連休にするために毎年日にちが変わるといのはどうも違和感を覚えます。飛び石でも連休でもどうでもいいことで、連休にすることを最大の優先価値にする必要はあるのでしょうか。みながみな連休を期待しているわけでもないでしょうに。(KT)